

NIHON - GATARI - SHO

# 日本語り抄

Guidelines for  
Narrating Japanese Culture



日本の物語編集のためのガイド

内閣府知的財産戦略推進事務局委託事業



編集工学研究所

EDITORIAL ENGINEERING LABORATORY

# 日本語り抄

## Guidelines for Narrating Japanese Culture

### 日本の物語編集のためのガイド

「日本語り」をはじめるにあたって……………	P.03
Japan Editingのための Japan Concepts ……………	P.05
<b>Marginal Japan</b> ……………	P.06
■ Japan Concept 1 <b>kiwa</b> キワ ……………	P.07
世界一統 大吟醸「熊楠」(和歌山県和歌山市)	
庖丁工房タダフサ パン切り包丁(新潟県三条市)	
■ Japan Concept 2 <b>marebito</b> マレビト ……………	P.10
新野の雪祭り(長野県阿南町)	
遠隔操作型アンドロイド「テレノイド」(大阪大学 石黒浩教授)	
<b>Mixing Japan</b> ……………	P.13
■ Japan Concept 3 <b>musubi</b> ムスビ……………	P.14
コンビニおにぎり	
ご祝儀袋	
■ Japan Concept 4 <b>awase</b> アワセ ……………	P.17
柔道 合わせ技一本	
マンガ『ONE PIECE』(尾田栄一郎)	
<b>Extreme Japan</b> ……………	P.20
■ Japan Concept 5 <b>kabuku</b> カブク ……………	P.21
歌舞伎	
原宿カワイイモンスターカフェ(東京都 原宿)	
■ Japan Concept 6 <b>wabi</b> ワビ ……………	P.24
HIGASHIYA GINZAの一汁三菜(東京都 銀座)	
ビックジョンのダメージデニム(岡山県倉敷市)	
<b>Books for Japan Editing</b> ……………	P.27
<b>日本を語り継ぐために</b> ……………	P.30

# 「日本語り」をはじめるとあって

## 忘れられた日本

世界を魅了する技術も芸能もコンテンツも、日本が誇るモノやコトの背景には、古来継がれてきた潜在的な文化的文脈がある。近世にいたるまで日本は、海外の知恵を取り入れながらも独自の文化を紡ぎ、次世代へとつないできた。長らくこの国の軸をつくってきた文化への高い意識は、近代化にともない軍事と経済成長へと取って代わり、外側（欧米）の後ろ姿を追いかけるうちにだんだん見えなくなってしまった。戦後の経済成長と平成のグローバリゼーションの波の中で、日本の文化の構造はいまだ発現しきれないままにある。

自らの文化構造を自覚しないまま、何に価値を見出し、それをどう外に伝えていくのか。日本の魅力を海外に向けて発信するためには、その背景に流れるヴィヴィッドな文化的コンテキストに目を凝らし、そこに躍動する日本特有のメソッドやスタイルを自覚する必要がある。

## 日本の深層・中層・表層

本来の日本を語り直すには、その文化の様相を深層・中層・表層で捉え直すアプローチが有効だ。表層に浮かび上がる事象にも、その奥には何らかの歴史をまたいだ物語の継続がある。その特色と道筋を中層・深層にまでたどってから現在を語り直すことで、文化的な意味付けや価値付けが確かなものになる。日本の本来を将来に向けて編集し直すのだ。

まず深層には、風土や歴史の成り立ちがある。災害が多く資源が限られている日本では、一つの資源（粉・木・紙など）を再編集しながら活用する再利用の価値観をつくった。その中で培われた独自のスタイルやメソッドやコンセプトがあり（餅・酒・障子など）、これを中層として捉えると、さまざまな文化のコンテキストが見えてくる。

本流から機能を切り出しながら新たな価値を産むカットアップの感覚（膳・俳句・生け花など）、小さな切り出しを持ち合うことで成立する場や座の文化、その場をマネジメントするための方法として「設え」「調度」があり、「おもてなし」の手続きもその中に発達した。それらを継いできた文化装置ともいえるものが公家が用意した有職故実であり、地域で守られてきた祭りであり、武士や町人が芸や技を磨いた道場でも

ある（茶道・武芸・書道など）。それらは、しきたりや格式として日本の文化的教養となり、習わしや風習、精神や技能として日本人の価値観を形づくってきた。そこに真行草のバラエティも生まれていった。

そうした文化的コンテクストを背景に、さまざまなモノやコトが表にあらわれている。コスプレとJポップと歌舞伎は、表層的に見れば一見バラバラの事象のように見えるけれど、中層・深層から捉え直せば、同じ文化的コンテクストから生まれてきたことに気がつく。

### 日本のクリエイティビティと本来のクールジャパン

元来日本は、海外の制度や仕組みを内側に取り込み、独自の文化へと昇華させてきた。豊かな文化的土壌の中で、名もなきイノベーターが次の文化をつくる。深川芸者の小唄や小袖は江戸時代に表出したJポップであったし、いまでは伝統芸能と呼ばれる歌舞伎は、カブキものたちが起こしたカウンターカルチャーだった。

外来コードを内生モードに仕立てながら、街場のマイノリティが型を破っては新たなスタイルを提示する。この足元の土壌と先端のイノベーションのかわるがわるが、日本文化をつくってきたのだ。

それらを何で表現していくかという日本のメディア感覚が、歌や浮世絵や茶の湯となり、能や歌舞伎や職人の技となっていった。少数のクリエイターやイノベーターたち（世阿弥・利休・乾山・歌麿など）の手による、まったく新しい価値観として生まれ出てきた文化の諸相を「日本の伝統」とくくるだけでなく、当時のコンテクストを引き寄せて生き生きと持ち出すことの中にこそ「クールジャパン」が躍如する。

### 日本を語るために

この「日本語り抄（にほんがたりしょう）」では、日本の中層にいまも息づくさまざまな価値観を「Japan Concepts」として取り出し、そこを入り口に「クールジャパン」を語るモデルを提示する。日本の物語を再編集する試みとして表層・中層・深層をまたぐ「Japan Editing」の手法と素材を、ごく一部ながら紹介したい。

Japan Editing のための

# Japan● Concepts

## Marginal Japan

kiwa キワ

marebito マレビト

Linking Japan

## Mixing Japan

Contextual Japan

musubi ムスビ

awase アワセ

Analogical Japan

Implicit Japan

Transforming Japan

Flattering Japan

Imaginative Japan

## Extreme Japan

kabuku カブク

wabi ワビ